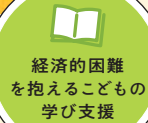


助成事業

助成事業は、こども支援に取り組む団体への助成を通じてこどもたちを支援する事業です。志を同じくする方々と共に、3つのテーマに取り組んでいます。



経済的困難を抱えるこどもの学び支援



重い病気を抱えるこどもの学び支援



被災したこどもの学びや育ちの支援



★2024年度助成実績★

採択団体6団体計1082万円
活動団体7団体（2023年度採択）

医療的ケア児
約2万人*2

難病のこども
約12.4万人*1

※1 出典：「小児慢性特定疾病児童とその家族の支援ニーズの把握のための実態把握調査の手引き書令和4年3月」（厚生労働省）
※2 出典：「医療的ケア児とその家族に対する支援に関する調査」令和6年3月（総務省行政評価局報告書）



(Pick Up)

入院中こそ質のいい遊び体験・学び体験を

現状と課題

入院中のポジティブな体験機会が少ない

勉強したり遊んだり友達と交流したり、やりたい気持ちがあっても、入院中は治療優先が基本。たくさんの制約が大きなストレスになることも。体調も整わない中、さまざまなことをあきらめ、自分を納得させる日々を送ることが多くなります。



取り組み

体調に合わせてできる夢中体験の提供

どんな工夫をすればこどもたちに夢中体験を提供できるか。病院の医療従事者の方々といねいに検討し取り組みを進めている団体があります。夢中になる体験ができることは、あきらめていた気持ちを前向きなものへと変化させます。「楽しい」「自分もできる」「やれる」という実感が、入院するこどもたちの財産になっていきます。

一般社団法人Child Play Lab.

夢中になって遊び、「病気という経験」を力に

一般社団法人Child Play Lab.は、「病気のこどもたちが、自分らしく生きられる社会」をめざして活動しています。その取り組みのひとつが、自分だけの絵本をつくる「アドベンチャーBOX」。病気という経験を前向きな力に変え、こどもたちが自分の気持ちを表現し、深めていくことを応援しています。このBOXを通じて、大人たちもこどもたちの想いや考えに触れ、多くの気づきを得ています。こどもたちが夢中になれるよう、質の高い体験を大切に、そこから生まれる心の動きや人とのつながりを育んでいきます。



Child Play Lab.代表理事 猪村真由さん
1999年生まれ。医療系学生コミュニティや一般社団法人Child Play Lab.を立ち上げ、病児支援や教育事業を展開中。Hospital Play Specialist



アドベンチャーBOX



ワークショップの様子



「BOX」が大好きなこどもたちと

特定非営利活動法人ポプルワークス

映像表現のプログラムで「繊細さ」を強みに

放送局出身者が集い、児童精神科をはじめとしたこころの現場に関わってきました。ワークショップでは、生きづらさや悩みを抱えるこどもたちが、「映像制作」を通して自分の思いや発想を表現できる機会づくりを目指し、ディレクター・撮影技術・美術・編集・音響効果・プロデューサーなど多職種のプロがサポートしています。

制作に夢中になりながら発見と探求を重ね、繊細さを強みにして大きな成長を見せるこどもたち。院内外の大人にとってもこどもたちの個性を再発見する機会となり、完成に向けて喜び合う一体感も生まれています。

映像制作が「わくわくする入口」と「社会へとつながる出口」となり、こどもたちが未来へ一歩を踏み出す一助になればと願っています。



ポプルワークス代表理事 西澤道子さん
映像ディレクター・社会福祉士・精神保健福祉士。NHKで教育・福祉番組を制作後、温かな社会づくりをめざし退職後に法人を設立。福祉・医療・教育の専門家と連携し、メディアを活用したこども若者支援を展開中。



大阪市立総合医療センター内 児童青年精神科で実施



こどもたちが制作した渾身の映像作品（※一部をイラストに加工しています）

各団体の活動内容はベネッセこども基金サイトからご確認いただけます。





経済的困難を抱えるこどもの学び支援

経済的困難の中にあるこどもたちは学びや生活に困りごとを抱えがちです。コロナ禍や災害などによる打撃で将来の選択肢を失い社会的に孤立する家庭も。最近は自治体による学習支援も増えてきましたが、孤立しないための包括的な支援体制や、支援を持続可能にする地域の関係機関との協働も必要だとわかってきました。最大3か年の中長期的な計画で、地域と協働し包括的な活動に取り組む団体を支援しています。

★2024年度助成実績★

採択団体6団体計2137万円
活動団体18団体（2021～23年度採択）

こどもの
貧困
約8.7人に1人※1

高等学校の
中途退学者
約4万人※2

社会的養護
児童
約4万2千人※3

外国ルーツの
こども
約15万人※4

※1 出典：2024年国民生活基礎調査（厚生労働省）
※2 出典：令和4年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査（文部科学省）
※3 出典：令和6年4月 社会的養育の推進に向けて（こども家庭庁）
※4 出典：令和5年度 外国人の子供の就学状況等調査（文部科学省）

（ Pick Up ）

大人がつながり、こどもの学びを支援する

現状と課題

地域の官・民・学がつながっていないことで、こどものSOSが埋もれがち

行政・学校・地域団体の連携がないと、こどもに関する情報が共有されず、困難な状況にあることが見過ごされたり、支援が届かなかったりする事態が起きます。学習支援や居場所づくりも個別に動いてしまい、継続的で効果的な支援をしていくことが難しくなります。

学校



家庭



地域



居場所



取り組み

官・民・学のハブになり
早期介入ができる体制づくり

行政・学校・地域・大学が連携し、こどもの状況を早期に把握・共有することで、こどもの困りごとを見つけ、学習支援や居場所づくりなど、必要な支援をタイミングよく届ける体制が整います。それぞれの立場のニーズを把握し、団体がハブとなりネットワークをつくっていく動きをとることで、こどもたちを見守る持続可能な体制づくりができていきます。

特定非営利活動法人 COCONI

こどもを真ん中に、大人がつながる

こどもたちが直面する多様な課題に対応するには、身近な大人同士がつながり、こどもを支えるしくみが必要です。そこで大阪府摂津市において、保護者や地域の方々、企業、学校、教育委員会など多様な立場の大人がつながり、対話を重ねることで、こどもたちが安心して過ごせる学校内外の居場所づくりや、学校支援のしくみづくりに取り組んできました。これらの実践から、こどもを真ん中にして大人同士がつながることで、こどもたちがより健やかに育まれる学校や地域環境をつくることができると実感しました。今後も、こどもも大人もつながりをもてるしくみづくりに取り組んでまいります。



COCONI代表理事 水木千代美さん

商業施設の企画設計を経て、地域の居場所「さたけん家」を開設。こども食堂や学習支援を通じて人の輪が広がり、「すべてのこどもたちが一歩先への希望をもてる社会」をめざし法人を設立。



第四中学校に設けた、校内の居場所



別府小学校運営協議会の様子

一般社団法人 UMEプロジェクト

学校・施設・団体・大学のつながりを地域へ

「こどもたちの可能性が地域の未来を切り拓く」という思いのもと、広島県尾道市内の母子支援センターや児童養護施設で学習支援を行っています。関係機関と連携し、課題整理や情報共有を実施。対面・オンラインでの支援体制を整え、シフト制による継続的な学習支援を構築しました。学校や施設職員とのケース会議も進め、こども一人ひとりに合った支援の形を模索。また大学教授との連携や企業への資金協力依頼も進めながら、地域全体で支えるコンソーシアムの設立をめざしています。経済的困難だけでなく、不登校や発達障がいなど多様な課題にも対応できるよう支援を広げていきたいと考えています。



母子支援センターでの学習支援風景



学習支援に参画してくれた学生ボランティアさんたちの卒業式の様子



UMEプロジェクト代表 高橋真理子さん

東京都で学童保育に関わった後、尾道市に滞在。教育・経済格差を実感し、小学生向け居場所づくり「UMEプロジェクト」を立ち上げ、学習支援や困窮家庭のこどもへの学び支援に注力。

Check //

各団体の活動内容はベネッセこども基金サイトからご確認いただけます。



研修やつながり・交流の機会提供

こどもたちの学びを支え続けるためには、支援する団体自身の持続可能性が欠かせません。団体の課題や成長フェーズに応じた研修やつながりの機会を通じて、基盤強化と関係性づくりを支える非資金的支援に取り組んでいます。

情報交換・交流の場



共通の想いや課題を持つ団体が相互に活動を知り、つながり、学び合う2日間の交流会。情報交換やインプットを通じて、課題解決や、新たな連携のきっかけをつくっています。これまで同じ志を持つ団体同士が交流会をきっかけに、事業連携を開始するなど、つながりから生まれた成果も見られています。

参加者からの声

（交流会について）



事業担当者

他団体の方の等身大の悩みを知ること、自分たちだったら、と少し先の未来の悩みやチャレンジを垣間見ることができました。



団体の代表

ファンドレイジングの多様な手法を、さまざまな具体例を通して習得できることを期待して受講しました。自分たちの中であいまいだったものを言語化・可視化していくアプローチが大変勉強になり、視野が広がりました。



事業担当者

全国のさまざまな団体の取り組みを知ることができ、今後の活動のヒントや頑張る熱量をいただきました。皆様とつながり、協力していくことの魅力をあらためて感じることができました。



団体の代表

団体の役割や注力すべきところが明確になりました。団体メンバーと共に受講することで、考えていることを共有したり、ブラッシュアップしたりすることができました。

私たちが
非資金的支援において
大切にしていること

組織基盤の
強化

団体の
成長フェーズに
合わせた支援

関係性
づくり

研修の場



- 資金集めだけでなく仲間集めの手法を学ぶ「ファンドレイジング研修」
- 協力関係を引き出す手法を学ぶ「協力のテクノロジー研修」
- 支援者向け「子どもの権利研修」

希望制で、専門家を招いての研修を実施。全体研修だけでなく、個別セッションを実施することで、団体ごとの課題や成長フェーズに応じた最適な学びの機会を届けられるよう心掛けています。

2024年度募集および決定助成団体



経済的困難を抱えるこどもの学び支援

募集対象

経済的な理由により学習に困難を抱えるこどもたちの意欲を高め、学びに取り組む手助けとなる団体の活動

- 募集期間：2024年11月11日～2025年1月6日
- 応募数：132件
- 採択事業数：6件
- 助成総額：計21,369,736円（初年度）
- 助成対象期間：2025年4月1日～2028年3月31日（最大3年間）

団体名	申請事業名	所在地	初年度助成額
認定特定非営利活動法人 アイキャン	地域連携による外国にルーツを持つ就学前のこどもの日本語・母語の教育環境整備事業	愛知県	2,999,320円
一般社団法人 Kids Code Club	貧困の連鎖を断ち切るための総合的なデジタルスキル学習サポート	福岡県	6,000,000円
特定非営利活動法人 志塾フリースクールラシーナ	貧困世帯で発達障害や学習の困難を抱える高校生世代を対象とした学習会及びオンライン個別支援推進事業	大阪府	2,991,400円
一般社団法人 ソーシャルペタゴジーネット	居場所を地域のパーマネンシー（持続性保障）拠点にステップアップするためのプロセスモデル事業	北海道	3,500,000円
特定非営利活動法人 地域子育てネットすくさぽ	経済格差を始めとする教育格差をなくすために、北海道全域に学習支援を届ける大学生人材ネットワークを構築する事業	北海道	3,172,080円
認定NPO法人 Learning for All	困難を抱えるこどもの社会参画に向けた自立準備支援	東京都	2,706,936円



重い病気を抱えるこどもの学び支援

募集対象

重い病気により長期入院や長期療養をしているこどもたちの意欲を高め、学びに取り組む手助けとなる団体の活動

- 募集期間：2024年6月24日～2024年9月1日
- 応募数：32件
- 採択事業数：6件
- 助成総額：10,820,450円
- 助成対象期間：2025年4月1日～2026年3月31日

団体名	申請事業名	所在地	初年度助成額
特定非営利活動法人 エゴノキクラブ	小児がんのこどものリーダーシップ育成事業	東京都	1,996,050円
認定特定非営利活動法人 シャイン・オン・キッズ	心のケアを軸とした長期入院治療を経験したこども達への社会復帰支援	東京都	1,999,600円
一般社団法人 Child Play Lab.	入院中の小学生を対象にした、ライフアドベンチャー教育のモデルづくりと検証事業	東京都	2,000,000円
特定非営利活動法人 北海道こどもホスピスプロジェクト	LTCのこどもと家族の状況を学びで改善する仕組みづくり～他地域展開～	北海道	1,057,000円
特定非営利活動法人 ポブルワークス	病院や自宅等で療養生活を送るこどもたちの内面を豊かに育む、映像制作ワークショップ実施事業	東京都	2,000,000円
特定非営利活動法人 にこり	法泉寺けあらば（医療的ケア児とその家族のQOL向上・災害対策に向けた旅行支援）	福岡県	1,767,800円